

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01313

研究課題名（和文）平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究

研究課題名（英文）Reserch on historical documents and archaeological materials concerning various aspects of buddhist culture and social foundations in Hiraizumi

研究代表者

七海 雅人（NANAMI, Masato）

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：00405888

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：12世紀、平泉と周辺地域における仏教文化の展開と、その社会的基盤の様相について、歴史学（文献史学）・考古学・宗教史学・美術史学各分野の研究者が協同し、これまで未調査であった文献・考古資料・石造物等の調査・集成を行った。文献・考古・石造物の三班に分かれて研究を進め、中尊寺経・平泉曼荼羅に関する基礎調査、平泉町とその周辺地域の経塚調査や熱海市の山畑遺跡発掘調査の再整理、平泉五輪塔の分布調査や平泉町内の板碑に関する追加調査などを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代・中世の移行期、東北地域史の一環として活況を呈している平泉研究であるが、近年、議論の複雑化と学説の対立という傾向が見られる。その理由の第一には、研究を支える素材である歴史資料そのものに対する調査・研究の不足という現状をあげることができるだろう。そこで本研究では、未調査・再調査を要する文献資料、絵画資料、考古資料、石造物資料を探索・選定し、基礎調査の実施及び調査方法の確立を企図した。あわせて、かかる歴史資料の紹介・分析を通じて、東日本大震災被災地における心のケア、地域創生の動向及び地域に根ざした歴史教育のあり方をサポートするための学問的な基盤づくりに寄与できることをねらった。

研究成果の概要（英文）： Researchers in the fields of history, archaeology, religious history and art history collaborated to investigate unresearched historical documents, archaeological materials and stone monuments concerning various aspects of buddhist culture and social foundations in Hiraizumi and the surrounding area, in the 12th century. The research was divided into three groups : historical documents, archaeological materials and stone monuments. The contents of the basic survey were the Chusonji sutra and the Hiraizumi mandala, the mounds of buried sutra in Hiraizumi town and the surrounding area, the reorganization of the excavations of the Yamahata ruins in Atami city, the distribution of the Hiraizumi Gorinto and the new discovered the Itabi in Hiraizumi town.

研究分野：日本中世史

キーワード：平泉 中尊寺経 経塚 五輪塔 板碑 磨崖仏 山畑遺跡（走湯権現関連遺跡群）

1. 研究開始当初の背景

平泉(現岩手県平泉町)は、12世紀を通して陸奥・出羽両国(東北地方)の掌握を進めた平泉藤原氏(奥州藤原氏)の本拠地であり、京都・博多などに次いで都市的な発展を遂げた場所といえる。独自の仏教文化を背景とする平泉藤原氏の歴史的達成が、同時代及び後世の東北地方の歴史、さらには日本の中世社会の成立史に与えた影響は極めて大きい。その考察テーマは、古代・中世都市論、宗教論、陶磁器文化論、交通・物流体系論、エミシ・エゾ論、在地領主論、中世武家政権論など多方面に及び、武士の政権の生成、中世社会の成立過程を明かにするための要の一つとしてとらえられる。また、地域の視座を徹底させる研究姿勢は、中央の政権から見通す一国史的「日本史」の枠組みを相対化し、日本文化の多様性を明らかにするものとしても評価されている。

しかし、その一方で、研究の方法に関する問題点も顕わになってきた。上記の考察テーマが多数の研究者によって取り込まれるようになったにもかかわらず、見解の一致を見出せない論点が依然複数存在し、議論がより複雑化する方向へと傾いているのである。この議論の対立・複雑化の要因として、平泉研究を支える歴史資料そのものに対する調査・研究の不足・遅れをあげることができるだろう。基礎的な資料研究が従前の成果にとどまっているため、議論のみが先行している感が否めないのである。また対象とする歴史資料が文献だけにとどまらず、多種多岐にわたっている点も、研究の難しさをもたらしているといえる。

こうした研究状況に対処すべく、2013～17年度、歴史学・考古学・宗教史学・美術史学各分野の研究者が協同し(文献班・考古班・石造物班を組織)、平泉に関わる歴史資料の集成と実物調査を目的とする共同研究が実施された(科学研究費補助金基盤研究(B)「平泉研究の資料学的再構築」:研究代表者・柳原敏昭、以下「再構築科研」とする)。本研究は、この「再構築科研」の直接的継承を試み、上記問題点を解消するための学術的環境の整備を進めようとするものである。

2. 研究の目的

「再構築研究」で組織した文献班・考古班・石造物班の研究体制を継続し、未調査もしくは再調査を必要とする資料を探索・選定して、研究活動の期間内で対処できる資料に絞った上で調査・分析を行い、平泉研究に関する資料データベースの充実を図る。さらに、その分析を通して、中世初期東北・北海道地域史に関する新たな歴史像の提示を目的とする。

【文献班】「再構築科研」において取り上げた中尊寺所蔵文書の調査成果を整理し、さらに聖教類の調査へと研究活動を進める。

【考古班】「再構築科研」において確認された北海道・東海地方における平泉と関係の深い遺跡・遺物の分布状況をふまえて、岩手県南部～宮城県北部沿岸の津波被災地の踏査、経塚の研究を進める。

【石造物班】「再構築科研」では、中尊寺釈尊院に所在する五輪塔(現存最古の紀年銘「仁安四年」=1169年を刻む)と、「平泉型宝塔」と名付けた特異な形態の石塔の様相を明らかにした。その成果をふまえて、平泉の仏教石造物文化のモデル・源流及びその展開を考察する。

3. 研究の方法

文献班・考古班・石造物班のチーフは、それぞれ七海雅人（研究代表者）・八重樫忠郎（研究協力者）・狭川真一（研究分担者）が担当した。各班において研究分担者・研究協力者を組織し、研究活動を進めた。調査の際には各班相互の乗り入れや協力を行ない、共同研究の円滑な進展と研究成果の共有を目指したが、コロナ禍によって十全な活動を行うまでにはいたらなかった。

【文献班】研究スタート時、平泉藤原氏が発願・製作した経典、中尊寺所蔵の宋版一切経、「毛越寺文書」を調査対象に選定した。しかし、コロナ禍により活動が大きく制限され、と「再構築科研」の成果の整理・分析に集中することとなった。

【考古班】研究スタート時、青森県平内町白狐塚遺跡周辺の発掘調査、北海道厚真町周辺の考古資料の調査、平泉町内・岩手県南部～宮城県北部津波被災地における経塚の踏査・発掘調査、伊豆走湯山出土資料の調査を選定した。しかし、コロナ禍により活動が大きく制限され、の作業に集中することとなった。

【石造物班】研究スタート時、平泉石造物文化の源流に関する調査、平泉石造物文化の行方に関する調査、東北地方北部の石造物調査を選定した。しかし、コロナ禍により活動が大きく制限され、の作業に集中することとなった。また、は、先行研究の蒐集・整理を中心に作業を進めることとなった。

【研究の総合と地域への成果還元・地域創生】コロナ禍により活動が大きく制限されたため、研究活動期間各年度末ごとの成果報告を実施することができなかった。文献班は、2024年3月に成果報告を兼ねたミニシンポジウムを開催し、考古班・石造物班は、それぞれ報告書を作成するにとどまった。

4. 研究成果

〔2020年度〕新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、当初予定していた作業を進めることができず、現地調査等のスケジュールを大きく変更せざるを得なかった。各班の作業内容・成果は、つぎのとおりである。

【文献班】「中尊寺文書」の電子入力によるデータベースの作成と、中尊寺経に関するこれまでの調査研究内容の論点整理。

【考古班】静岡県熱海市の伊豆走湯山遺跡群出土資料の整理・分析に着手し、岩手県南部における経塚の分布調査を進めた。

【石造物班】一関市図書館など資料所蔵施設を訪問し、岩手県・宮城県・福島県における中世石造物の情報を蒐集し、次年度以降における調査リストの作成を進めた。

〔2021年度〕新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、前年度同様、現地調査等のスケジュールについて、しばしば変更をせざるを得ない状況となった。当初計画した内容を修正し、資料収集とその分析を進めた。各班の作業内容・成果は、つぎのとおりである。

【文献班】「中尊寺文書」の翻刻作業を進めた。また、京都国立博物館において観心寺（大阪府河内長野市）所蔵中尊寺経の現物調査を実施し、調書の作成を行った。静岡市立芹沢銈介美術館所蔵中尊寺参詣曼荼羅の現物を調査し、従来の研究成果に学びつつ新たな知見を得た。

【考古班】伊豆走湯山遺跡群出土資料の整理・分析作業を継続した。また、平泉町毛越地区

において経塚遺跡の発掘調査を行った。

【石造物班】福島県いわき市の木製五輪塔、鎌倉市の木製五輪塔・中世石造物を調査し、平泉型石塔との比較研究を進めた。

〔2022年度〕新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、前年度同様、当初の計画変更を余儀なくされた。繰越を許可され、2023年度にかけて研究成果の取りまとめを行った。各班の作業内容・成果は、つぎのとおりである。

【文献班】「中尊寺文書」の翻刻作業を継続した。平泉世界遺産ガイドランスセンターにおいて、伊豆山神社所蔵金銀字経「仏説無所（りっしんべん+希）望経」の調査を行い、中尊寺経の可能性が高いという新知見を得た。考古班の協力を得て、調査成果の一部を報告するミニシンポジウムを開催した（2024年3月16日、場所：東北学院大学ホーイ記念館）。

【考古班】伊豆走湯山遺跡群出土資料の整理・分析作業を完了し、報告書『山畑遺跡（走湯権現関連遺跡群）調査報告』を作成した。

【石造物班】平泉五輪塔の系譜と所在分布の広がり、達谷窟磨崖仏の基礎研究、平泉町内の新発見板碑に関する報告などを収録した報告書『平泉石造物調査研究報告』を作成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 永田英明	4. 巻 69・70合併
2. 論文標題 「平安中期陸奥・出羽の貢納制と絹」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『東北学院大学論集. 歴史と文化』	6. 最初と最後の頁 1 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 七海雅人	4. 巻 130
2. 論文標題 「鎌倉・南北朝時代の巨理郡」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『郷土わたり』	6. 最初と最後の頁 14 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八重樫忠郎	4. 巻 10
2. 論文標題 「平泉を構成する遺構」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『都市史研究』	6. 最初と最後の頁 71 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八重樫忠郎	4. 巻 43
2. 論文標題 「平泉遺跡群出土の貿易陶磁研究の2000年以降の新研究と新発見について」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『貿易陶磁研究』	6. 最初と最後の頁 20 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳原敏昭	4. 巻 62
2. 論文標題 「平泉モノがたり」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『季刊大林』	6. 最初と最後の頁 14 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 歆	4. 巻 10
2. 論文標題 「古代の国家・城柵から平泉への展開」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『都市史研究』	6. 最初と最後の頁 99 - 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤利男	4. 巻 10
2. 論文標題 「都市平泉研究 中世都市研究における意義と可能性」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『都市史研究』	6. 最初と最後の頁 61 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人間田宣夫	4. 巻 令和3年度
2. 論文標題 「骨寺村における均等在家の成立をめぐって」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 歆	4. 巻 49
2. 論文標題 「研究ノート 日本古代・中世初期の都市」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本古代・中世初期の都市』	6. 最初と最後の頁 80 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀 裕	4. 巻 -
2. 論文標題 「陸奥の仏教文化」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 吉村武彦・川尻秋生・松木武彦編『シリーズ地域の古代日本 陸奥と渡島』株式会社KADOKAWA	6. 最初と最後の頁 173 - 201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原敏昭	4. 巻 232
2. 論文標題 「南九州の平泉伝説 「酒匂安国寺申状」と「山田聖栄自記」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 319 - 337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入間田宣夫	4. 巻 26
2. 論文標題 中「尊寺の七堂伽藍ができあがるまでに」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『関山』	6. 最初と最後の頁 12 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入間田宣夫	4. 巻 24
2. 論文標題 「大日岳社記 駒形根信仰における仏から神への転換をめぐる」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『一関市博物館研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入間田宣夫	4. 巻 令和2年度
2. 論文標題 「骨寺村絵図にみる金峯山・御嶽堂の背景に(2)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』	6. 最初と最後の頁 4 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野文夫	4. 巻 9
2. 論文標題 「中尊寺文書の基礎的検討」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『岩手大学平泉文化研究センター年報』	6. 最初と最後の頁 37 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 歆	4. 巻 49
2. 論文標題 「研究ノート 日本古代・中世初期の都市」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告』	6. 最初と最後の頁 57 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永田英明
2. 発表標題 「平安時代の東北社会をどう見るか - 古代史の視点から」
3. 学会等名 ミニシンポジウム 陸奥国 古代から中世への展開 - 研究の最前線
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 八重樫忠郎
2. 発表標題 「考古学からみた北東北の古代中世」
3. 学会等名 ミニシンポジウム 陸奥国 古代から中世への展開 - 研究の最前線
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 「平泉藤原氏の主従制」
3. 学会等名 ミニシンポジウム 陸奥国 古代から中世への展開 - 研究の最前線
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 「鎌倉・南北朝時代の巨理郡」
3. 学会等名 巨理郷土史研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 「藤原経清と平泉藤原氏の成立」
3. 学会等名 山元町ふるさと歴史学習会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永田英明
2. 発表標題 「古代東北の物流・交通と地域編成 - 陸奥側の視点から - 」
3. 学会等名 古代交通研究会第22回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上杉智英
2. 発表標題 「観心寺・金剛寺の聖教」
3. 学会等名 京都国立博物館特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺 真言密教と南朝の遺産 」記念講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田 歙
2. 発表標題 「古代の国府・城柵から平泉への展開」
3. 学会等名 都市史学会、2022年度都市史学会大会（平泉）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 斉藤利男
2. 発表標題 「都市平泉研究 - 中世都市研究における意義と可能性」
3. 学会等名 都市史学会、2022年度都市史学会大会（平泉）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 「陸奥国分寺・国分尼寺と疫病・皇位継承 - 地域の歴史と遺跡を考える - 」
3. 学会等名 第12回全国国分寺サミットin仙台・陸奥国分寺（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 「東アジア宗教史と古代日本」
3. 学会等名 国史談話会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 七海雅人ほか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 「伊達な文化」魅力発信推進事業実行委員会編	5. 総ページ数 63
3. 書名 『特別名勝松島ハンドブック』	

1. 著者名 堀裕・柳原敏昭編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 『東北史講義 古代・中世編』	

1. 著者名 永田英明・堀裕・菅野文夫・柳原敏昭・七海雅人・羽柴直人・八重樫忠郎ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩手県北上市	5. 総ページ数 678
3. 書名 『新編北上市史 資料編古代・中世』	

1. 著者名 元木泰雄・佐伯智広・横内裕人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 280
3. 書名 『京都の中世史2 平氏政権と源平争乱』	

1. 著者名 上杉智英ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 159
3. 書名 展覧会図録『特別展 河内長野の霊地 観心寺と金剛寺 真言密教と南朝の遺産 』	

1. 著者名 入間田宣夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 345
3. 書名 『中世奥羽の自己認識』	

1. 著者名 江田郁夫・柳原敏昭	4. 発行年 2021年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 303
3. 書名 『奥大道 中世の関東と陸奥を結んだ道』	

1. 著者名 一関市教育委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 一関市教育委員会	5. 総ページ数 110
3. 書名 『令和3年度「骨寺村荘園遺跡」研究集会報告書 聖地、霊場としての骨寺村と中尊寺との関係』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	永田 英明 (NAGATA Hideaki) (20292188)	東北学院大学・文学部・教授 (31302)	
研究分担者	柳原 敏昭 (YANAGIHARA Toshiaki) (30230270)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	狭川 真一 (SAGAWA Shinichi) (30321946)	大阪大谷大学・文学部・教授 (34414)	石造物班の班長担当
研究分担者	入間田 宣夫 (IRUMADA Nobuo) (40004048)	東北大学・東北アジア研究センター・名誉教授 (11301)	2022年度は研究分担者からはずれ、研究協力者となる。
研究分担者	菅野 文夫 (KANNO Humio) (40186177)	岩手大学・教育学部・名誉教授 (11201)	2022年度は研究分担者からはずれ、研究協力者となる。
研究分担者	堀 裕 (HORI Yutaka) (50310769)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	上杉 智英 (UESUGI Tomohide) (50551884)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部美術室・研究員 (84301)	
研究分担者	横内 裕人 (YOKOUCHI Hiroto) (50706520)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	
研究分担者	吉田 勲 (YOSHIDA Kan) (70312618)	山形県立米沢女子短期大学・その他部局等・教授 (41501)	
研究分担者	齊藤 利男 (SAITO Toshio) (90162213)	弘前学院大学・社会福祉学部・特任教授 (31104)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	八重樫 忠郎 (YAEGASHI Tadao)		考古班の班長担当

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関